

宮川 實著

搾取の理論

社会科学書房

宮川 實 経済学著作集 III

搾取の理論

社会科学書房

【著者略歴】

みやがわ みのる
宮川 實

1896年 山口市に生まれる

1923年 東京大学法学部卒

以後河上肇先生に経済学を学び、ドイツに留学、
同志社大学講師、和歌山大学教授をつとめる

1936～1957年 立教大学経済学部教授

1952年 労働者教育協会設立に参加

現在 労働者教育協会名誉会長・勤労者通信大学学長

主著書 『新経済学入門』『資本論講義』『マルクス経済
学辞典』『カール・マルクス』『資本論学習要
綱』『資本論論争』 翻訳『資本論全巻』

搾取の理論

1984年 6月 1日 第1刷印刷

〈検印廃止〉

1984年 6月 5日 第1刷発行◎

著 者 宮川 實

発行者 佐藤成一

発行所 社会科学書房

東京都墨田区両国 3-24-7-802

電話 03(632)1448 振替東京 1-35667

発売元 株式会社 日中出版

東京都千代田区西神田 1-3-6 三崎町ビル

電話 03(292)8721 振替東京 5-186748

印刷・製本 (株) ケイ・エム・エス

ISBN4-915367-03-7 C1333

序 文

この『搾取の理論』には、(1)旧著『搾取』の改訂増補版『搾取の基礎理論』と、(2)旧著『二重の搾取』の改訂増補版『中小企業での搾取と収奪』と、(3)旧著『独占資本の搾取』の改訂版『独占資本の搾取と収奪』と、(4)新資料、一九八四年とがふくまれる。Iの搾取の基礎理論では搾取の歴史性と資本主義的搾取のしくみがのべてあり、IIの中小企業の搾取と収奪ではさいきんとくに頻発している中小企業の倒産とその底に流れている経済の法則を明らかにし中小企業の問題を法則的に理解しやすいように説明してある。又、IIIの独占資本の搾取と収奪では、独占資本が全人民を搾取、収奪するしくみがのべてある。この書物の全体をとおして説明しようとしたことは、二つある。一つは、搾取という現象は、これまで人類が経験したすべての社会にあった現象ではなく、奴隸制社会と封建制社会と資本主義社会だけにあった現象であって、原始社会と社会主義社会には存在しない現象であるということ、であり、もう一つは、資本主義社会の搾取はどのようなしくみでおこなわれているか、ということである。

なおこの書を出版するにあたっては、資料、その他の点について神奈川県学習協事務局長新谷昌之氏の大きな援助をうけた。ここに特記して謝意を表する。

一九八四年五月

目次

序文

I 搾取の基礎理論

第一講 はしがき

16

搾取は歴史的現象である(16) 搾取の論理を深める必要がある(19) 資本主義変革の理論を学ぶ必要がある(22) 世の中は変る(23) いまの世界の特徴は資本主義から社会主義に移行する過程だということである(24) 世界は四つの部分からなる(25) 力関係は社会主義に有利に、資本主義に不利に急速にかわりつつあるある(26)

第二講

資本家は金^{かね}もうけのために生産をおこなっている

27

ある電器メーカーの「経営方針」(27) 生産は社会のためにおこなわれるか(27) 生産は金もうけのためにおこなわれる(28) 生産は社会化されている(29) 社会化された生産が金もうけのために利用されている(30) 資本主義と社会主義とはどこがちがうか(31) 資本主義では生産手段が資本家に私有され、社会主義では社会の全成員によって共有されている(社会的所有)(31) 社会主義でも消費手段の個人的所有はみとめられる(33) 資本主義と社会主

第三講

義とでは生産の目的がちかう(33) 資本主義では社会的生産は無政府的であり、社会主義では社会的生産は計画的である(35) 生産物の分配方法がちかう(36) 搾取はどのようにして、どの程度に、おこなわれているか……………37

第四講

資本家と労働者の利益は相反する……………47

労働者には五種類のものがある(37) 生産的労働者が基礎である(39) 労働者が売っているのは労働ではなくて労働力である(40) 労働と労働力はどこがちかうか(40) このことを知ることの重要性(41) 剰余価値(資本家のもうけ)はどうして生産されるか(43)

賃金と剰余価値とは一方が大きくなれば他方が小さくなるという関係である(47) 剰余価値を大きくしようとする資本家の欲望は緩和することがある(48) 独占資本は最大限利潤の追求を競争によって強制されている(48) 労働者は生活を向上させるためには協調しないで戦わねばならない(49) 科学的管理法は労資の利益は一致すると主張する(50) テーラー・システムは労働強化を目的とする(50) 映画「すばらしき娘たち」(51) 労働強化によって利益をえるのは資本家だけである(51) 生産性の向上は資本家にも労働者にも利益になるという主張(53) 生産性が向上すると実質賃金が高くなるか(54) 生産性の向上は労働時間を短縮するか(55) 生産性の向上は失業者を生みだす(56) 独占資本は競争のしわよせを賃金の切下げにもつてくる(56) 企業の支払能力は固定した大きさではない(57) 労働組合は企業別でなく産業別に組織されねばなら

ぬ(58) 独占資本の労働対策は分裂政策である(58)

第五講

資本家は搾取率を高めるために賃金に格差をつける……………

59

企業内の賃金格差(59) 職階制賃金(60) その職務評価の基準は非科学的である(60) 賃金格差の科学的な基準はなにか(61) 職階制賃金は労働者を分裂させ職制を強化する(62) 男子の賃金と婦人の賃金との格差とはなにか(63) 格差の生じる理由(64) 婦人の低賃金は労働者全体の賃金を下げるテコとなる(64) 成人労働力と青年労働力との賃金格差(65)

第六講

資本家が労働者をやしなっているのではなく

労働者が資本家をやしなっている……………

66

常盤線の国鉄労働者(66) 再生産、拡大再生産、単純再生産(67) 労働者はじぶんの賃金でじぶんで生産している(68) 資本家は労働者にやしなわれている(69) 拡大再生産のばあい(71) 会社の資本は剰余価値を蓄積したものである(73) 階級社会ではものがさかさにみえる(73) 池袋の暴力団の親分が治安の維持者にみえる(74) 地球上では太陽が地球をまわるようにみえる(77) 資本主義社会では資本家が労働者をやしなうようにみえる(77)

第七講

労働者はじぶんの会社の資本家に搾取され

ているだけでなく、他の会社の資本家にも搾取されている……………

79

第八講

この講の問題(79) 準備的な知識(79) 資本の有機的講成(80) 利潤率の大きさの変動する原因(80) 平均利潤率の法則(81) 平均利潤形成の歴史(84) 一つの会社で搾取を強化すると他の会社の利潤率も高くなる(84) 資本家階級が労働者階級を搾取する(86) 資本家相互の関係は利害の対立と一致の二重の関係である(87) 労働者は一つの参謀本部をもたねばならない(87)

商業労働者、金融業者の労働者、サービス部門の労働者、公務員はどうして搾取されているか……………88

この講の問題(88) 国民所得の第一次分配(88) 商業資本は産業資本の循環の矛盾を解決する(90) 商業資本は平均利潤をえる(91) 商業労働者はどうして搾取されているか(92) 金融業は機能資本(産業資本と商業資本)の矛盾を解決する(93) 金融業の労働者はどうして搾取されているか(94) 小商品生産者のつくった国民所得も分配される(95) 国民所得の再分配(96) サービス部門とはなにか(96) サービス部門の労働者も搾取される(97) 国家予算の階級的性格(97) 歳入は主として勤労人民からあつめられる(97) 歳出は主として独占資本のためになされる(99) 公務員はどうして収奪されているか(99)

第九講

独占資本はどういう方法で搾取しているか……………101

独占資本は相互の競争のために最大限の利潤を手にいれねばならぬ(101) 独占

第十講

国家の役割

資本は社会主義との競争のためにも最大限の利潤を手にいれねばならぬ(102)
 最大限の利潤をえるために勤労人民の搾取収奪を強める(102) 生産過程で労働者の搾取をつよめる(102) 労働時間の延長による搾取の強化(102) 機械は労働時間を短縮しない(103) 生産性の向上による搾取の強化(104) 生産性の向上はなぜ搾取の強化になるか(104) 第二次大戦後の技術革新(106) 労働強化による搾取の強化(106) 賃金切下げによる搾取の強化(108) 流通過程での収奪(108) 農民と中小資本の収奪(109) 国家を媒介とする収奪(110) 高い租税による収奪(110) インフレーションによる収奪(110) インフレは租税である(111) 極端な大衆課税である(111) 日本の終戦直後のインフレ(112) インフレは実質賃金を切下げて利潤を増加させる(114) インフレによって独占資本は中小資本を収奪する(116)

国家は階級社会ではじめて現われた(118) 国家は武装した人間の特別部隊である(119) レーニンの説明(119) 権力を維持するための経費が必要である(121) 国家は経済的に支配する階級の道具である(121) 国家の型と形態を混同してはならぬ(122) 民主共和制は進歩を意味する(123) レーニンの民主共和制についての説明(123) 国家は独占資本の道具となった(126) 独占資本は国家を経済に干渉させる(127) 国家は思想と暴力をもって独占資本を支える(130) 賃金は階級闘争によってきまる(131) 賃上げ闘争は姑息療法である(132) 経済闘争は政治闘争の学校である(132)

II 中小企業での搾取と収奪

第一講 中小企業とはなにか

中小企業を量的にきめることはできない (136) 中小企業とはなにか (137) 生産が少数の巨大企業に集中している (137) 産業には独占組織が支配している (137) 銀行業務も少数の巨大銀行に集中している (137) 金融資本が支配している (138) 株式の保有による支配 (138) 重役の派遣による支配 (139) 融資による支配 (140) 金融帝国の領土 (140) 中小企業は非独占的企業である (140)

第二講 独占資本はなぜ、いかにして、中小企業を収奪するか

独占資本ははげしく競争する (142) 独占資本は技術革新をしなければならぬ (142) 技術革新には巨額の資本が要る (143) 独占資本はこの巨額の資本を調達しなければならぬ (143) 社会主義と競争するためにも巨額の設備投資が要る (143) 独占資本は国内で搾取収奪を強める (144) 独占資本による中小企業の収奪 (144) 中小企業は非常に多い (144) なぜ多数の中小企業が存在するか (144) 中小企業を収奪する諸方法 (145)

第三講 中小企業の労働者の労働条件はなぜ悪いのか

第四講

金融資本による中小企業の系列化

独占資本は技術を改良して失業者をつくりだす(149) 相対的過剰人口(151)
 独占資本は中小企業を没落させて失業者をつくる(152) 独占資本は農村に龐大な潜在的失業者をつくりだす(152) 龐大な失業者の存在が中小企業の賃金を安くする(153) 賃金は需要供給の關係で変動する(153) 賃金は資本と労働の闘争によってきまる(154) 大企業の賃金はどうしてきまるか(155) 新卒者と失業者とが中小企業に殺到する(156) 中小企業の賃金はなぜ低くきまるか(157) 中小企業は労働組合への組織率が低い(158) 長時間労働(158) 低賃金労働がいつさいの基礎である(158) 労働の生産性が低いから賃金が低いという説(159) 付加価値額の生産性は労働の生産性を正しくあらわさない(159) 資本家のいう生産性は労働の強度をふくむ(159) 賃金が低いから労働の生産性は低くなる(160)

162

自動車工業の系列化(164) 造船業の系列化(164) 市場確保のための系列化(165) 繊維工業の系列化(165) 綿織物の系列化 織物の系列化は糸の販路を拡大し安定させる(166) 繊維二次製品の系列化(166) 線材二次製品部門の系列化(167) 系列化は独占的高利潤を確保する一つの方法である(167) 系列企業の安定は相対的である(168) 系列外の企業は没落するか再下請となる(169) 中小企業の労働者が階層分化する(171)

第五講

国家は独占資本の道具である

173

第六講

中小企業の労働組合

中小企業にたいする国家の役割を知る必要がある (173) 国家とはなにか (173)
 日本の独占資本は国家を支配している (174) 国家独占資本主義 (174) 国家の
 経済への干渉は独占資本のためである (175) 国家が事業をおこなうばあい (175)
 租税をとりたててるばあい (176) 特別減税措置 (176) 独占商品が高く買う (177)
 財政投融资 (177) 統制価格で独占資本に利益をあたえる (177) インフレによ
 って独占資本に利益をあたえる (178) インフレは実質賃金を切下げる (178)
 インフレは大衆課税である (178) インフレによって中小企業を収奪する (178)
 独占価格を維持する (178) 恐慌対策 (178) 国家の経済への干渉は独占資本の
 ためである (179) 国家は階級支配の道具である (179) 原始社会には国家はな
 かった (179) 国家は階級社会ではじめてあらわれた (180) 国家は階級支配の
 暴力機関である (181) プルジョア国家の本質は勤労人民の抑圧機構だという点
 にある (182) 資本主義経済制度を支えている二つの柱 (183) 以上の結論 (183)
 中小企業の資本家は二面性をもっている (184)

中小企業の労働組合 186
 賃金は資本家と労働者の闘争によってきまる (186) 賃金の高さは労働組合の闘
 争力に依存する (187) 中小企業の労働者が出稼型であることが低賃金の原因か
 (188) 中小企業者の過当競争は低賃金の原因か (189) 中小企業にはなぜ労組
 が少ないか (190) 非近代的な労務管理がおこなわれている (190) 企業別労働
 組合 (191) 企業別組合の欠点 (191) 資本家が競争のしわよせを賃金引下げに
 もつてくるのを阻止できない (191) 企業の枠をこえる問題を取扱えない (193)

系列企業が企業意識をつくろうとしている (193) 産業別全国組織 (194)

第七講 中小資本家の地位

独占資本が中小資本を収奪している (195) 中小資本は労働者をひどく搾取するが蓄積の余裕がない (196) 独占資本の技術革新と中小資本の低い技術の矛盾 (196) 中小企業の系列化と中小企業の階層分化 (196) 中小企業の二つの問題 (196) 中小企業の労働条件はどうして改善されるか (197) 中小資本は労働者階級の同盟軍か (198) 中国では中小企業はどうなかつたか (199) 労働者は中小資本をいかに取扱うべきか (200)

195

III 独占資本の搾取と収奪

第一講 搾取は直接的には企業のなかでおこなわれる

この講話の目的 (204) 個別資本による企業のなかでの搾取 (206) 剰余価値の理論 (206) 資本家と労働者の利益は相反する (211) 資本家と労働者の利益は一致するという理論 (212) その理論のあやまり (213) 資本家は最大の剰余価値を手に入れようとする (215) 搾取を最大限にすることは経済の法則である (216) 賃上げのためには闘かわねばならない (216) 労働者は統一し団結しなければならぬ (216) 剰余価値の理論の結論 (217)

204

第二講

資本家階級全体が労働者階級全体を搾取している……………

218

じぶんを搾取しているのはじぶんの企業の資本家だけではない(218) 資本の有
 機的構成が異なると利潤率がちがう(218) 異なる利潤率から平均利潤率がつく
 られる(220) 搾取は階級と階級との関係である(222) 一つの企業で賃上げが
 おこなわれるとすべての企業の利潤率が下る(224) 商業資本家、銀行資本家も
 剰余価値の分配にあずかる(224) 商業資本家のばあい(226) 金融業の資本家
 のばあい(227) 国民所得の第二次分配(227) 資本家階級全体が労働者階級全
 体を搾取している(228) 労働者階級は統一し団結しなければならぬ(228)

第三講

独占資本はいかにして全人民を搾取収奪しているか……………

230

独占資本とはなにか(230) 独占組織の形態(230) 独占資本の株式保有による
 支配(231) 独占資本の重役の派遣による支配(232) 独占資本の金融による支
 配(232) 少数の独占資本が日本の経済を支配している(233) 独占資本は政治
 を支配している(233) 金融寡頭支配制(234) 独占資本は競争に勝つために最
 大限の独占利潤を手に入れなければならない(234) 職場での搾取の強化(235)
 労働時間の延長(235) 労働生産性の向上(236) 原子力の利用(236) オート
 メーション(236) 技術革新は労働者に不利益をもたらす(237) 能率給と職務
 給(238) 職務給のねらい(239) ヒューマリン・リレーションズの改善(240)
 資本主義的生産の搾取関係と協力関係(240) H・R改造の諸形態(242) 流通
 過程での搾取(244) 独占価格(245) 管理価格は独占価格である(246) 非独

占商品の買いたたき(246) 独占資本は中小企業の労働者をどうして搾取しているか(247) 高い独占価格で生産手段を売る(247) 製品を買いたたく(248) 下請を搾取する(248) 高い利子をとる(249) 国家を媒介にして搾取する(249) 中小企業の付加価値は小さい(250) 中小企業労働者は二重に搾取されている(250) 中小企業の低賃金の原因は生産性が低いという主張(250) 中小資本家と統一戦線(252) 独占資本は農民を搾取する(252) 生産手段を高く売りつける(252) 消費手段を高く売りつける(253) 農産物を安く買う(253) 米作での搾取(253) 麦作での搾取(254) 価値も市場価格の差額を搾取する(254) 独占資本は国家権力をもちいて搾取する(254) いままでの総括(255)

第四講

独占資本は国家の力をつかって全人民を搾取収奪している……………257

国家とはなにかエンゲルスの説明(257) 国家とは何かレーニンの説明(261) 国家は独占資本の暴力装置となった(266) 国家独占資本主義(266) 国家が経済に介入する形態(269)

第五講

アメリカの独占資本は
いかにして日本の全人民を搾取収奪しているか……………274

日本を利用する三つの方法(274) 軍事基地として利用する(274) 有利な商品市場として利用する(275) 貿易為替の自由化(275) アメリカの勢力範囲からの輸入(276) 貿易自由化は日本の産業を破壊する(276) 日本の低賃金労働力

を利用する (277) そのための資本と技術を日本にもちこむ (278) 米独占資本の搾取収奪は生活のあらゆる隅々に浸透している (278)

第六講

日本の独占資本はいかにして全人民を搾取収奪しているか 280

日本の独占資本は日本の基幹産業を支配している (280) 日本の独占資本はアメリカの独占資本に従属している (280) 日本の独占資本は技術革新をおこなった (281) そのため生産力が高まり市場問題が激化した (281) 軍需品市場を拡大しようとする (281) 国外市場と貿易の自由化 (282) 合理化を強行する (282)

第七講

日本の労働者階級の歴史的使命 284

いままでのまとめ (284)

一 階級とは何か 285

階級とはなにか (285) 階級は生産手段をもつ人間と集団をもたない人間の集団である (286) 原始社会には階級はなかった (287) 生産力が発展し剰余生産物があらわれ、生産手段の私有がおこなわれると奴隷制度が生まれた (288) 家長制奴隷制 (289) 奴隷制生産様式 (289) 階級区別の基礎はなにか (290) 収入の差は階級区別の基礎ではない (290) 生産での機能の差は階級区別の基礎ではない (291)

二 賃金労働者とは何か 291

VI 新しい資料（一九八四年）

中小企業の比重（308） 政官財複合体（308）

賃金労働者の発生（291） 本源的蓄積（292） 日本労働者の誕生（293） 労働者階級の形成（294） マルクスの説明（294） 過渡的な諸階級（297） プロレタリアートだけが真の革命的階級である（298） 労働者階級の歴史的使命（299） 統一戦線の可能性（299）

三 階級闘争と民族独立闘争との結合……………300

民族とはなにか（301） 民族独立闘争の第一階級（302） 民族独立闘争の第二段階（303） 民族独立闘争の第三段階（305） 民族独立闘争の第二段